
'Convert Doc'

ユーザーズガイド

SoftInterface, Inc.

目次

'Convert Doc'ユーザーズマニュアル	1
'Convert Doc'とは	1
'Convert Doc'の機能	2
ユーザーインターフェースからの'Convert Doc'の使用	2
'Convert Doc'の基本	2
クイックスタート: ファイルの変換	5
クイックスタート: ファイルに対する特殊処理	6
プログラムオプション	8
ファイルタイプの変換	8
変換方式	8
フォルダ全体のファイルを変換	9
PDF から RTF/DOC への詳細オプション	10
TXT、DOC、HTM および RTF ファイルの操作	12
特殊処理: 空白行の削除	12
特殊処理: ファイルの追加(連結)	13
特殊処理: 文字列の検索および置換	14
プログラムの起動、コピー、削除およびその他のファイル操作	15
プログラムの起動: cmd.exe の例	16
変換ジョブのスケジュール	17
時間で指定	19
カレンダーで指定	19
スケジューラの実行	20
オプション	20
Convert Doc スケジューラの追記事項	21
'Convert Doc'の使用に必要なもの	22
インストールとアンインストール	22
インストール	22
アンインストール	22
トラブルシューティング	23
コマンドラインからの'Convert Doc'の使用	24
コマンドラインの使用	24
変換ジョブの指定	25
変換タスクの指定	26
コマンドラインスイッチの仕様	26
ファイルタイプ定数の仕様	29
例: MS Word からテキストファイルへの変換 PDF からテキスト/HTML への変換	31
例: WordPerfect から MS Word への変換	32
例: テキストから PDF への変換	32

例: MS Word から PDF への変換.....	33
例: MS Word からテキストファイルへの変換.....	33
変換定数	35
ファイル変換フォーマット.....	35
付録 A: 変換ジョブおよびログファイルの構造	38
変換ジョブファイルの読み込み、作成方法.....	38
付録 B: 言語の変更または追加	40
言語の変更または追加.....	40
付録 C: WordPerfect とその他のファイルタイプの変換	41
WordPerfect とその他のファイルタイプの変換.....	41

'Convert Doc'ユーザーズマニュアル

'Convert Doc'とは

'Convert Doc' (CD) は使い方が簡単で、しかも洗練されたドキュメント変換ユーティリティです。CD を使用すれば、いくつものフォルダに散在するさまざまな種類の大量のファイルを短時間で変換できます。CD は、特に複雑な変換ジョブを定期的に行う場合に役立ちます。CD はコマンドラインから実行し、バッチファイルで使用できるようにしたり、プログラムから立ち上げたりできます。

PDF、テキスト、RTF および HTML は、しばしばそれぞれのフォーマットに変換されることがあります。CD を使用すれば、当社の変換アルゴリズムを使用したり、MS Word に組み込まれたアルゴリズムを使用して、柔軟にファイルフォーマットを変換できます。

ファイル変換に加え、CD にはさらに向上した機能が含まれ、より使いやすくなりました。たとえば、ファイルのすべてのフォルダやサブフォルダを指定し、変換することができます。また、変換したファイルを元のフォルダに保存するか、別のフォルダに保存するかを選択できます。

CD にはタイマーが組み込まれているので、秒単位から月単位まで指定した間隔でジョブをスケジュールできます。

最新版では、その他にも多くのファイル処理が加わりました。詳細は次のとおりです。

- ファイルの追加 (結合) オリジナルファイルの内容を対象ファイルの最後に表示¹
- 空白行の削除¹
- 文字列の検索と置換¹
- プログラムの立上げ (実行)。削除、コピーなどのファイルの操作が含まれます

¹ = *.TXT, *.DOC, *.HTM および *.RTF ファイルタイプ

ここからすぐに「クイックスタート: ファイルの変換」もしくは「クイックスタート: ファイルの特殊処理」に進みたいと思うでしょう。しかし、その

前に「ユーザーインターフェースからの Convert Doc の使用」を簡単に読むことをお勧めします。

SoftInterface, Inc.では、常に製品を改良、向上させています。最新情報や製品へのご要望は、当社のWebサイトをご覧ください

(WWW.SoftInterface.COM)。また、必ず製品を登録して、最新のバージョンを入手し、サポートを受けてください。

'Convert Doc'の機能

- コマンドライン（実行時には不可視）および GUI からの実行
- PDF、MS Word、RTF、CSV、HTML、TXT などの迅速な変換。MS Word は不要。Adobe Acrobat は不要
- 当社独自の変換または MS Word の変換アルゴリズムの選択
- PDF フォーマットをサポート（PDF から RTF、PDF から TXT、DOC から PDF、TXT から PDF など）
- 追加、結合、空白行の削除、サードパーティのプログラムの起動、文字列の検索および置換などのファイルの特殊処理
- 変換ジョブと呼ばれる複雑な変換設定を保存および復元
- 再帰サブフォルダをサポート
- 指定した間隔でタイマーを設定し、ジョブを自動的に実行
- ソースファイルや対象ファイル、変換オプションなどは、すべて統一されたパラメータで設定
- バッチを実行途中で停止させたり、後で再開したりすることが可能
- あらゆる言語に対応
- インストールしたパッケージはデモファイルとジョブを含む

ユーザーインターフェースからの'Convert Doc'の使用

'Convert Doc'の基本

注意：インストールしたパッケージにはサンプルの変換ジョブが含まれており、Convert Doc の機能や特徴がご覧いただけます。さまざまな (.sii) 変換ジョブをご覧になり、それぞれのタスクの設定を確認することで、使い方を学ぶことができます。デモをご覧になるには、[スタート]>[プログラム]>[Convert Doc]>[Example Conversion Jobs]を選択してください。これらのデモは、デフォルトのフォルダにインストールしていることを前提にしています。*

変換タスクと変換ジョブの2つ概念を簡単に説明します。

変換タスク

'Convert Doc'を使用する前に、作業内容を決定する必要があります。処理されるそれぞれのアイテムは、**変換タスク**と呼ばれます。プログラムのユーザーインターフェースの上部で**変換タスク**を指定し、完全に指定したら、**[追加]**ボタンを押します。**変換タスク**を追加すると、そのアイテムがユーザーインターフェースの下部の**変換タスク一覧**に表示されます。

まず**変換タスク一覧**の**変換タスク**をクリックして選択し、編集することもできます。設定を変更したら、上部のツールバーの**[更新]**ボタンをクリックします。

注意： このマニュアルでは、「タスク」という用語がしばしば登場します。これは、**変換タスク一覧**のそれぞれの行に表示される作業を指します。

タスクを指定するには、まず**変換**または**特殊処理タスク**を選択します。ファイル変換ではファイルタイプを変更します（例: **DOC**から**PDF**）。ファイルの内容を変更するには、**[ファイルに対する特殊処理]**を選択します。

変換または**特殊処理**のどちらを選んでも、オリジナルファイルと対象ファイルを指定します。オリジナルファイルは既存のファイル（または前回の**変換タスク**で作成されたファイル）で、**変換**の入力または**特殊処理タスク**に使用されます。対象ファイルは、オリジナルファイルに対し実行されたアクションにより作成されるファイルです。

変換ジョブ

変換ジョブとは、**変換タスク一覧**で指定したり追加した**変換タスク**を指します。**変換ジョブ**は、保存、復元、編集が可能なので、作業時間を大幅に短縮できます。**変換ジョブ**の保存および復元については、**[ファイル]**メニューをご覧ください。

タスクを1つにまとめる

単純な**変換ジョブ**も複雑な**変換ジョブ**も、ユーザーインターフェースから実行できます。**変換ジョブ**を実行するには、まずユーザーインターフェースの上部で**変換ジョブ**を指定し、**[追加]**ボタン（ツールバーの上部）をクリックして**変換タスク一覧**に追加します。

タスク一覧に1つ以上のタスクあれば、**[変換]**ボタン（ツールバーの上部）を押し、**変換ジョブ**を実行します。

複数の**変換タスク**を含む**変換ジョブ**も作成できます。そのジョブは保存、復元、編集が可能です。保存したら、その**変換ジョブ**をコマンドラインから指定および実行し、複雑なタスクを簡単に自動化することもできます。**変換ジョブ**の保存および復元については、**[ファイル]**メニューをご覧ください。

変換ジョブの編集

変換ジョブにある**変換タスク**の編集や削除はとても簡単です。

タスクを編集するには、**変換タスク一覧**のタスクをハイライト（マウスでクリック）します。タスクを選択したら、**変換プロパティ**が画面上部3分の1

に表示されます。必要に応じて変換タスクのプロパティを変更し、[更新]ボタン（または ALT+U）を押します。これで変換タスク一覧への変更が保存されます。[更新]を押さないと、変更が失われます。

前に実行した変換ジョブで作業している場合、再度ジョブを実行する前に**[巻き戻し]**ボタンをクリックし、ジョブをリセットできます。

タスクを削除するには、タスク一覧でそのタスクをハイライトし、**[削除]**ボタン（または ALT+D）を押します。

変換ジョブの保存と復元

[ファイル]メニュー（または CTRL+S）の[保存]、またはツールバーの**[開く]**ボタンの隣にあるドロップダウンの矢印で、**変換ジョブ**を保存し、再度使用できます。ジョブを一時停止して保存した場合、再度読み込めば、前回ジョブを保存したところに戻ります。

重要!!! 次回、ファイルを読み込んではじめてから開始したい場合、変換ジョブのファイルを保存する前に必ず**[巻き戻し]**してください。

変換ジョブを開くのはとても簡単です。[ファイル]>[変換ジョブを開く]、CTRL+O ショートカット、またはツールバーの**[開く]**ボタンの隣にあるドロップダウンの矢印をクリックして、**[変換ジョブを開く]**を選択します。

新しい変換ジョブの作成

新しく開始する場合、ツールバーの**[新規]**ボタンをクリックするか、[ファイル]メニューの**[新規変換ジョブ]**を選択するか、CTRL+N を押して、新しい変換ジョブを開始できます。

注意：新しい変換ジョブを作成すると、変換タスク一覧の現在のアイテムがすべて消去されます。

ログを変換ジョブとして保存

ログには変換中に発生したあらゆる問題ファイルが含まれます。ログに問題が表示された場合、変換ジョブとしてそれらを保存し、あとで別の方法で処理できます。**[ログを変換ジョブとして保存]**は[ファイル]メニューの**[開く]**ボタンの隣にあるドロップダウン矢印をクリックしても選択できます。

たとえば、Convert Doc に組込みの変換（こちらのほうがより高速）を使用し、MS Word ファイルを変換します。次に、変換に問題が生じたファイルを MS Word で処理します。手順は次のようになります。

- A) 変換ジョブを指定します。
- B) 変換ジョブを実行します。
- C) [ファイル]メニューから、**[ログを変換ジョブとして保存]**を選択し、変換ジョブとして問題のあるファイルを保存します。
- D) 保存した変換ジョブを読み込みます。
- E) それぞれのファイルで MS Word を使用するよう変換方式を変更します。

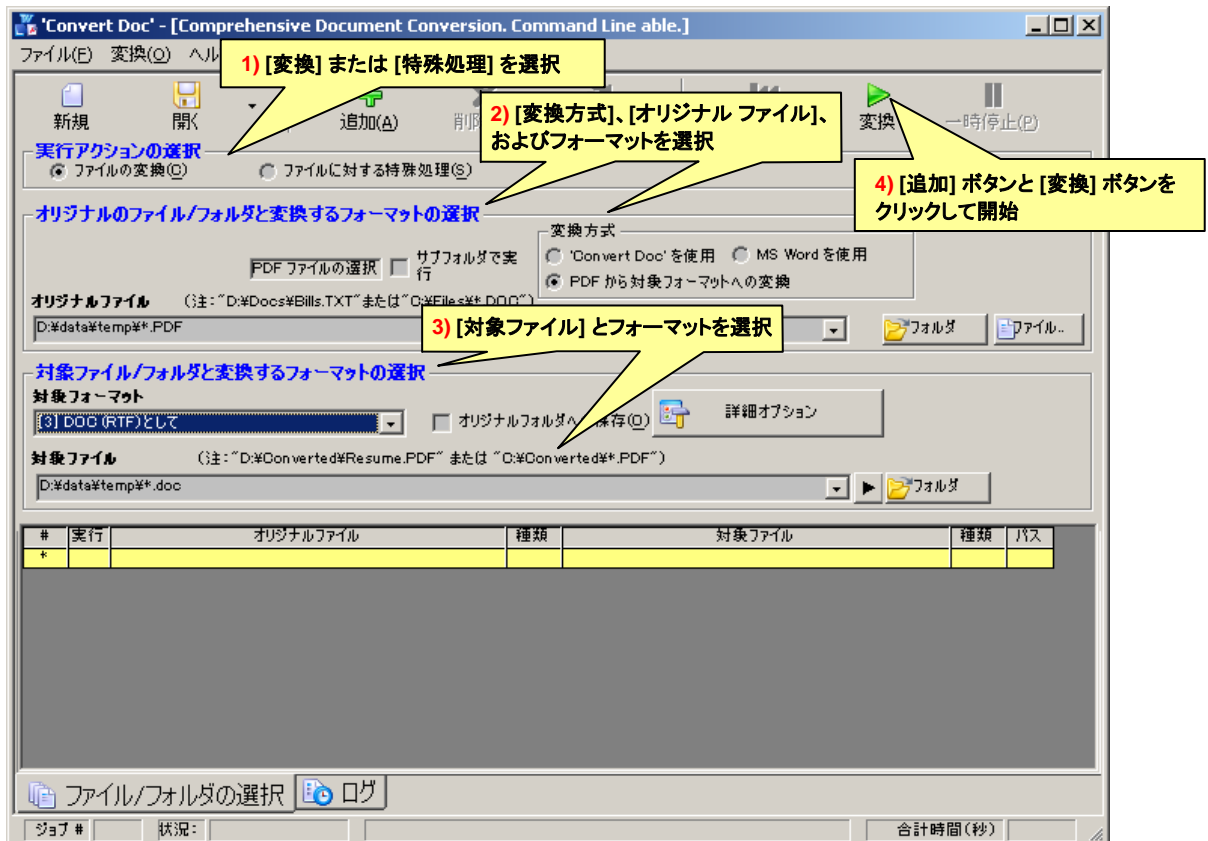
変換ジョブを実行します。

インストールしたパッケージにはサンプルの変換ジョブが含まれており、Convert Doc の機能や特徴がご覧いただけます。さまざまな (*.sii) 変換ジョブをご覧になり、それぞれのタスクの設定を確認することで使い方を学ぶことができます。デモをご覧になるには、[スタート]>[プログラム]>[Convert Doc]>[Example Conversion Jobs]を選択してください。これらのデモは、デフォルトのフォルダにインストールしていることを前提にしています。

クイックスタート: ファイルの変換

簡単な変換タスクも複雑な変換タスクもユーザーインターフェースから実行できます。ファイルを変換するには、次の手順を実行します。

[実行アクションの選択]の中から、ファイルタイプを変換する場合は[ファイルの変換]を、選択したファイルにオプションを適用する場合は[ファイルに対する特殊処理]を選択します。画面は次のようになります。



すべての変換ジョブで、次の4つの手順を行う必要があります。

1) [ファイルの変換]をアクションとして選択します。

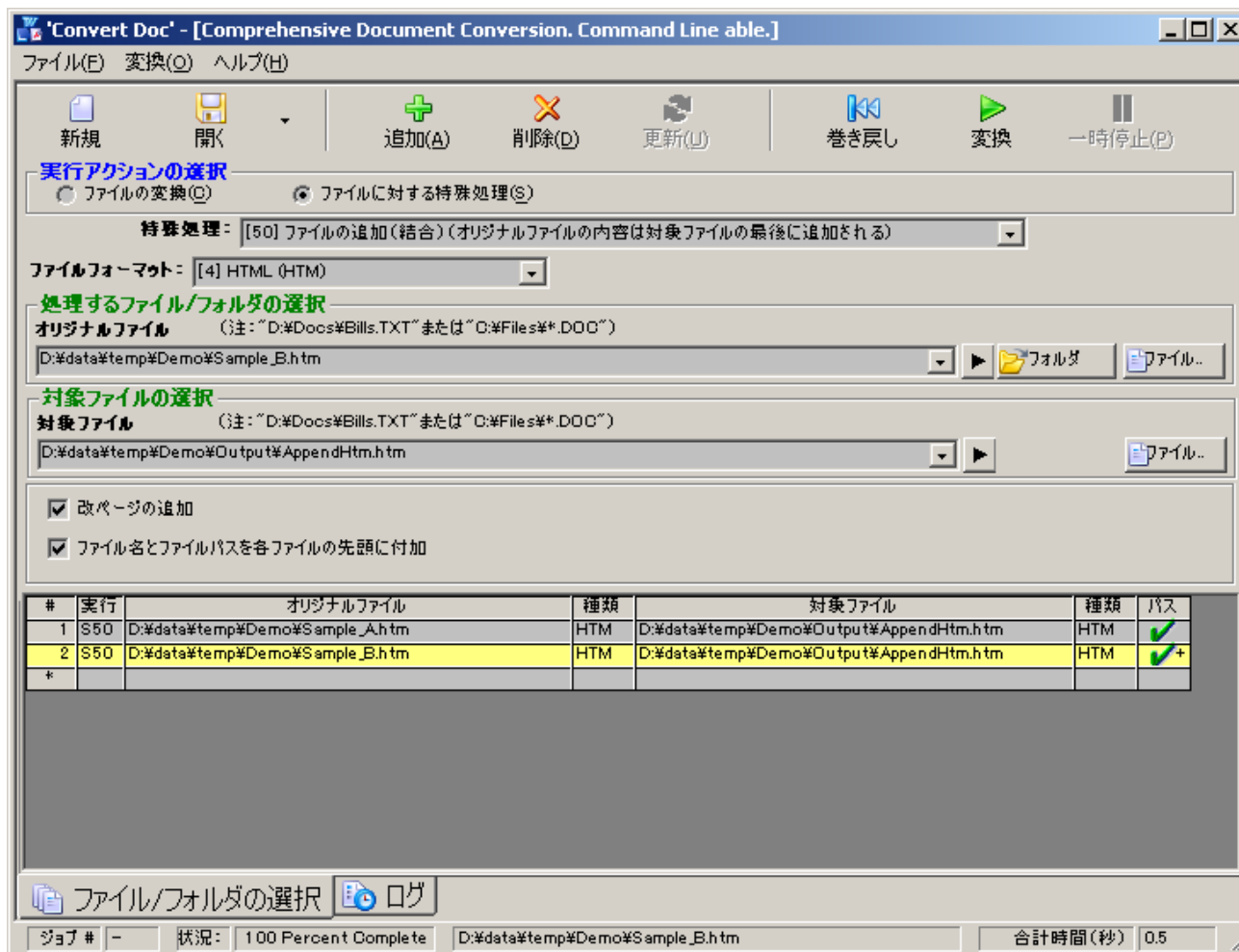
- 2) [オリジナルのファイルフォーマット]ドロップダウンリストからファイルまたはフォルダのフォーマットを選択し、[オリジナルファイル]テキストボックスにそのファイルやフォルダのパスを指定します。PDFファイルは、リストボックスの右側にある[PDF から対象フォーマットへの変換]オプションボタンを使用します。ドロップダウンリストボックスに必要なファイルタイプがない場合、別の変換方式を選択する必要があります。
- 3) [ファイルフォーマットの変換]ドロップダウンリストからファイルやフォルダを変換するフォーマットを選択し、変換したファイル/フォルダを保存する場所を指定します。指定したフォルダが存在しない場合、Convert Doc ではフォルダを作成することもできます。そのとき、作成するフォルダの場所を指定する必要があります。
- 4) ツールバーの[追加]ボタンを押し、[変換タスク一覧]にタスクを追加します。変換ジョブに変換タスクを追加するには、1 から 4 の手順を必要に応じて繰り返します。

変換ジョブを開始する準備ができたなら、[変換]を押します。

洗練された[変換ジョブ]を作成するには、1 から 4 の手順を必要なだけ繰り返します。変換ジョブは保存、修復、編集が可能です。変換ジョブは、コマンドラインから指定し、実行することもできます。

クイックスタート: ファイルに対する特殊処理

[ファイルに対する特殊処理]では、さまざまな[特殊処理]のオプションを選択し、ファイルに適用できます。ファイルから空白行を削除したり、対象ファイルの最後にオリジナルファイルを追加することもできます。Convert Doc から他のアプリケーションを起動することもできます（詳細は以下を参照）。



空白行の追加や削除は次の手順で行います。

- 1) ファイルフォーマット: オリジナルファイルが保存されているファイルフォーマットを選択します。対象ファイルもこのフォーマットで保存する必要があります。
- 2) 特殊処理: 適用したい処理をドロップダウンリストから選択します。
- 3) 処理するファイル/フォルダの選択: 処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか入力します。
- 4) 対象ファイルの選択: ファイルを保存する場所を参照するか入力します。フォーマットは手順1の[ファイルフォーマット]と同じにします。たとえば、docの空白行を削除したら、ファイルはdocになります。
- 5) [追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から5の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。
- 6) [変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

複数の変換タスクからなる変換ジョブは、保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定、実行できます。

プログラムオプション

次のオプションは、このプログラムの全般的な操作に影響するものです。これらのオプションは、[ファイル]>[オプション]から使用できます。

処理の終了後にオリジナルのファイルを削除

すべての重要なデータのバックアップがあることを確認してからこのオプションを有効にしてください。このオプションを指定すると、処理が完了した後、オリジナルファイルを削除します。オリジナルファイルと対象ファイルが同じ場合は削除されません。

MS Word または Convert Doc のいずれかの方法が失敗した場合、もう一方の方法も試す

このオプションでは、問題のあるファイルの変換をあきらめる前に両方の変換方式を実行し、信頼性を向上させます。

MS Word オプション

MS Word の変換方式を選択した場合、メモリと速度の最適化を選択できます。

基本的に、速度の最適化を選択すると、一度‘Convert Doc’で MS Word を開き、変換ジョブが終了すると MS Word を閉じます。欠点は、変換ジョブ中により多くのメモリとスペースが使用され、追加の一時ファイルが作成されることです。変換ジョブが終了すると、一時ファイルは削除されます。

メモリの最適化を選択すると速度は遅くなりますが、変換ジョブを実行中、メモリはそれほど使用されず、一時ファイルが作成されることもありません。

MS Word パスワード

Word ドキュメントにパスワードが含まれている場合、ここで指定できます。

MS Word ページ詳細

このドキュメントのリリース時には、このオプションはまだ導入されていないかもしれません。ここで、変換するページを指定できます。ページの範囲も指定できます（例: 3、4-10）。

ファイルタイプの変換

操作方法を簡単に理解するには、「クイックスタート-ファイルの変換」をご覧ください。

‘Convert Doc’は、1つのファイルも、フォルダにあるすべてのファイルも、あらゆるタイプのファイルに変換できます。変換方式は3つあります。オリジナルのファイルおよび対象ファイルのタイプに合わせて1つ選びます。

変換方式

現在、3つの異なる変換方式があります。

- A) Convert Doc
- B) MS Word
- C) PDF ファイル変換

選択する方式は、特に指定する**オリジナル**のファイルタイプに依存します。次の表をガイドとして使用してください。

Convert Doc 方式は高速のファイル変換に最適です。Convert Doc を使用すれば、MS Word ファイルを変換する場合でも Word をインストールする必要はありません。

MS Word での変換では、Convert Doc 方式では変換できないファイルフォーマットの変換が可能です。MS Word での変換では、MS Word で開いて保存できるすべてのファイルフォーマットに対応します。フィルタイプの一覧を参照するには、[対象フォーマット]ドロップダウンリストボックスの[[?] その他のフォーマット]を選択します。

PDF ファイル変換は、PDF から別のファイルタイプに変換する場合に選択します (RTF/DOC、TXT、または HTML)。

変換方式	オリジナルのファイルタイプ	対象ファイルタイプ
Convert Doc	MS Word、テキスト、UNICODE テキスト、RTF、HTML	Adobe Acrobat、MS Word、HTML、RTF、テキスト、UNICODE テキスト
MS Word	MS Word で開くことができるファイル。 WORDPERFECT 、TXT、HTML、DOC、RTF などを含む	MS Word で保存できるファイル。すべての値を見るには[その他のフォーマット]を選択します
PDF ファイル変換	PDF	RTF/DOC (RTF)、テキストおよび HTML

WordPerfect ファイルの変換の詳細は、「*WordPerfect とその他のファイルタイプの**変換***」を参照してください。

フォルダ全体のファイルを変換

変換タスクに複数のファイルを指定するには、必ず[オリジナルファイル]入力ボックスでワイルドカード (*) を指定します。

オプションでオリジナルのフォルダに保存するか、新しいフォルダに保存できます。オリジナルのフォルダに保存するには、[オリジナルフォルダへの保存]チェックボックスをチェックします。このチェックボックスは、オリジナルフォルダとワイルドカード (例: *.DOC) を指定した場合にのみ表示されます。

サブフォルダを実行するには、必ず[サブフォルダで実行]チェックボックスをチェックしてください。

たとえば、D:\MyDocFiles\ とそのサブフォルダのすべてのファイルを DOC から別のフォーマットに変換する場合、オリジナルのファイルタイプに次のように入力します。

D:\MyDocFiles*.DOC

次に、[サブフォルダで実行]チェックボックスと[オリジナルフォルダへの保存]チェックボックスを選択します。[追加]ボタンをクリックして、[変換]ボタンをクリックします。ファイル/フォルダ数によって、変換タスクは数分から不特定の時間がかかることがあります。

PDF から RTF/DOC への詳細オプション

PDF ファイルの作成方法によっては、どの変換オプションを使用すれば最良の結果が得られるかを検証する必要があります。PDF から RTF/DOC に変換する場合、[詳細オプション]ボタンを押すと、次の詳細オプションが使用できます。これらのオプションはテキストまたは HTML フォーマットのファイルでは使用できません。

詳細オプションを使用して変換ジョブを作成する場合、最後に選択したオプションは、変換タスク一覧のすべてのジョブに適用されるので注意してください。たとえば、フォントタイプ Arial をジョブ 1 に、Tahoma をジョブ 2 に選択すると、両方のジョブのフォントタイプは Tahoma になります。同じオプションを使用するジョブを作成することをお勧めします。

オプション	意味
フォント名の調整	このオプションを選択する場合、PC にインストールされているフォントを使用してください。このオプションは、作成される RTF ファイルの精度を向上させます。
スペースの調整	[テキストボックスを使って正確に配置]オプションと一緒にのみ使用できます。PDF のスペースにあわせてスペースを調整します。
変換方式	<p>変換方式には3つのオプションがあります。入力するフォーマットと希望する出力に応じてそれぞれを選んでください。入力ドキュメントのフォーマットについての詳細は、「ドキュメントのレイアウト」を参照してください。</p> <p>[スペースとタブでレイアウトを維持]–シングルカラムのドキュメントにのみ使用できます。生成されるドキュメントのテキストの位置は、テキストボックスの代わりにタブとスペースを使用してオリジナルのレイアウトを維持します。[ヘッダの検出]オプションも参照してください。</p> <p>[テキストボックスを使って正確に配置]–生成されるテキストは、テキストボックスを使用してオリジナルと同じ位置に配置されます。[テキストの結合]と[スペースの調整]オプションも参照してください。</p> <p>[テキストフロー]–テキストと画像をドキュメントから抽出しますが、オリジナルのレイアウトは維持しません。シ</p>

	<p>シングルカラムのドキュメントでもマルチカラムのドキュメントでも使用できます。[テキストフロー]のほうが編集は簡単です。</p>
ヘッダの検出	<p>[スペースとタブでレイアウトを維持]オプションと一緒にのみ使用できます。このオプションを選択すると、Convert Doc は自動的にドキュメントのヘッダとフッタを検出します。</p>
ドキュメントのレイアウト	<p>次の3つが選択できます。</p> <p>シングルカラム – 枠組みのない単純なドキュメントに使用します。</p> <p>マルチカラム – 枠組みのある複雑なドキュメントに使用します。このドキュメントタイプでは[テキストフロー]を選択してください。</p> <p>法的文書 – 特に法的手続き用のドキュメントに使用します。生成される RTF ドキュメントの行番号を編集するには、MS Word の[表示]>[ヘッダーとフッター]を選択してください。</p>
ハイパーリンクの抽出	<p>オリジナルのドキュメントのハイパーリンクを維持する場合は、このオプションを選択してください。</p>
イメージの抽出	<p>このチェックボックスは[イメージ]タブの下にあります。オプションとして、生成される RTF ファイルにオリジナル PDF からの画像を含めることができます。オリジナルの PDF ファイルからの画像を含める場合は、このオプションをチェックしてください。画像は JPG か BMP フォーマットで保存できます。</p> <p>このオプションをチェックしないと、生成される RTF ファイルに画像は含まれません。画像にテキストが含まれる場合もあるので注意してください。</p>
開始ページ	<p>このオプションは[ページ指定]タブの下にあり、[変換するページを指定]オプションが選択されている場合にのみ使用できます。変換する範囲の最初のページをあらわします。</p>
イメージフォーマット	<p>[イメージ]タブの下にあります。JPG か BMP を選択します。JPG がデフォルトです。</p>
テキストを含める	<p>オプションとして、生成される RTF ファイルにオリジナル PDF からのテキストを含めることができます。</p> <p>オリジナルの PDF ファイルからのテキストを含める場合は、このオプションをチェックしてください。</p> <p>このオプションをチェックしないと、生成される RTF ファイルにテキストは含まれません。しかし、このオプションを選択しても画像は除かれます。画像にテキストが含まれていてもいなくても同様です。</p>
JPEG データの質	<p>[イメージ]タブの下にあります。質は 1% から 100% までで</p>

	設定します。値が大きくなると画像の質も高くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。
段落の結合	このオプションは、段落に複数のテキスト行を配置するときに選択します。そうすることにより編集は容易になりますが、ある状況ではドキュメントがオリジナルと異なって見えるという問題が生じます。これは、PDF と RTF のフォントに互換性がないためです。 [テキストボックスを使って正確に配置]オプションが有効の場合、[テキストの結合]も選択されている必要があります。
テキストの結合	このオプションは、テキスト行に個別の単語を結合するときに選択します。 このオプションを選択しないと、それぞれの単語が個別のテキストボックスに配置されます。このオプションにより、オリジナルドキュメントのテキストの位置がより正確に保たれます。
オーナーパスワード	暗号化されたファイルのオーナーパスワードです。複数のパスワードを分ける場合は、カンマを使用します。
フォントの縮小	このオプションを選択すると、すべてのテキストがオリジナルの画面範囲に収まります。抽出したテキストが非常に長い場合に有効です。このオプションは、フォントサイズを RTF ドキュメントのテキストボックスに収まるよう自動的に変更します。[テキストボックスを使って正確に配置]オプションと一緒にのみ使用できます。
変換するページを指定	[ページ指定]タブの下にあります。このオプションが選択されている場合、変換するページの範囲を指定できます。
終了ページ	このオプションは[ページ指定]タブの下にあり、[変換するページを指定]オプションが選択されている場合にのみ使用できます。変換する範囲の最後のページを表します。
ユーザーパスワード	暗号化されたファイルのユーザーパスワードです。複数のパスワードを分ける場合は、カンマを使用します。

TXT、DOC、HTM および RTF ファイルの操作

ファイルに複数の特殊処理を行うこともできます。特殊処理は次のとおりです。

特殊処理: 空白行の削除

この特殊処理では、見えない行または空白の行を削除します。この処理には、スペース、改行、キャリッジリターン、タブおよび垂直タブの削除も含まれます。一度のジョブで1つのファイル进行处理することも、フォルダ全体のファイル进行处理することもできます。空白行の削除は次の手順で行います。

- 1) 使用できる特殊処理の一覧から[[55] 空白行の削除]オプションを選択し、[ファイルフォーマット]からオリジナルファイルのファイルフォーマットを選択します。対象ファイルもこのフォーマットで保存される必要があります。
- 2) [処理するファイル/フォルダの選択]から、処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか、入力します。
- 3) ファイルを保存する場所と名前を参照するか入力して、[対象ファイル]に対象ファイルの情報を入力します。フォーマットは手順1の[ファイルフォーマット]と同じにします。
- 4) [追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から4の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。
- 5) [変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

複数の変換タスクからなる変換ジョブは、保存、復元、編集が可能です。保存したら、その変換ジョブをコマンドラインから指定、実行できます。

特殊処理: ファイルの追加(連結)

1つのファイルを他のファイルの末尾に追加できます。その際、対象ファイルの最後にオリジナルファイルのコピーが付きます。

1. 使用できる特殊処理の一覧から[[50] ファイルの追加(連結)]オプションを選択し、[ファイルフォーマット]からオリジナルファイルのファイルフォーマットを選択します。対象ファイルもこのフォーマットで保存される必要があります。
2. [処理するファイル/フォルダの選択]から処理するファイルまたはフォルダのパスを参照するか、入力します。
3. ファイルを保存する場所と名前を参照するか入力して、[対象ファイル]に対象ファイルの情報を入力します。フォーマットは手順1の[ファイルフォーマット]と同じにします。
4. [追加]ボタンをクリックし、変換タスク一覧にタスクを追加します。変換処理を実行するまえに、1から4の手順を必要なだけ繰り返し、変換タスク一覧に複数のタスクを追加できます。
5. [変換]ボタンをクリックし、処理を開始します。

また、[フォルダ] オプションでオリジナルファイルを選択し、ファイルフォーマット (例: *.doc、*.htm、*.txt) をパスの最後に加えると、複数のファイルを1つのファイルの終わりに追加することができます。対象ファイルとして、同じフォーマットのファイル名を1つ指定する必要があります。それは同じフォルダにあるファイルでも別のフォルダにあるファイルでもかまいません。たとえば、C:\BusinessLetters*.doc のオリジナルファイルと C:\BusinessLetters\ManyLetters.doc の対象ファイルは、BusinessLetters フォルダにあるすべての.doc を ManyLetters.doc に追加します。

特殊処理: 文字列の検索および置換

この特殊処理により、1つのファイルや複数のファイルのテキストの一部を置換することができます。処理するファイル、検索する文字列および置換する文字列を選択します。

複数のファイルを検索対象とする場合、[オリジナルファイル]にワイルドカードとファイルタイプが付いたフォルダ名を入力します。たとえば、`C:\TestFolder*.doc`と入力すると、`TestFolder`のすべての`.doc`ファイルが検索対象となります。1つのファイルを検索する場合、たとえば、`C:\TestFolder\OneFile.doc`とファイル名を指定します。

オリジナルファイルでも他のファイルでも置換できます。オリジナルファイルで置換する場合、[オリジナルファイル]と[対象ファイル]の両方のパスに同じファイル名を使用してください。そうしない場合、別の対象ファイル名が指定され、置換された他のファイルが生成されます。指定された対象ファイルがすでに存在する場合、ファイルは上書きされます。

特殊制御文字

検索文字列テキストボックスの下に ASCII 文字を指定するリストボックスがあります。検索と置換文字列に符号や制御文字を使用する必要がある場合、ASCII 文字で指定できます。たとえば、リターン (Enter) を含む文字列を検索する場合、ASCII Char リストボックスから ASCII 文字の [10] LF を選択します。文字列では `©10©` のように表示されます。1. First item. という文字列に置換する場合、1. の後ろにはタブが必要です。[9] TAB を選択して、文字列に `©9©` を表示させます。文字列全体は、`1.©9©First item.` となります。

注意: Enter を ASCII の改行文字 ([10] LF) のみで検索することもできますが、Enter を置換文字列に加えたい場合は、[13]CR と [10] LF の2つの ASCII 文字を組み合わせる必要があります。たとえば、検索する文字列 `this is a string` のそれぞれの単語の後ろにリターンを加えたい場合、置換文字列は `this ©13© ©10©is ©13© ©10©a ©13© ©10©string` となります。ASCII 文字は ASCII Char リストボックスから選択できます。

その他の役立つ ASCII 文字は、[32] SPACE です。

大文字小文字の区別

大文字小文字を区別して検索するかを指定できます。区別しない場合、大文字小文字にかかわらず、該当する文字が検索されると、その検索文字列はすべて置換されます。

注意: 次のオプションはすべてのファイルタイプで使用できるわけではありません。

正規表現の使用

テキストファイル (UNICODE または ANSI) では、正規表現の使用を指定できます。正規表現を使用すると、検索文字列を指定するときに、一般法則を使用できます。たとえば、`h` で始まるすべての文字を検索し置換するよう指定できます。この場合、`hello` や `happy` などが置換されます。注意: 入力するファイルタイプを RTF ではなくテキストに指定すると、RTF ファイルでも検索および置換できます。使用されている正規表現エンジンについての詳細は、次のリンクを参照してください。

<http://www.softinterface.com/FAQ/FAQ-Regular-Expressions.htm>

完全に一致する単語だけを検索

検索アイテムの前後に空白や見えないテキストがある場合、それらも含めて検索されます。検索アイテムの前後に句読点がある場合でも同様です。

行の最初は検索対象外

テキストが行の最初にない場合にのみ検索されます。

行の最後は検索対象外

テキストが行の最後でない場合にのみ検索されます。

複数行表現

複数行のテキストを検索します。

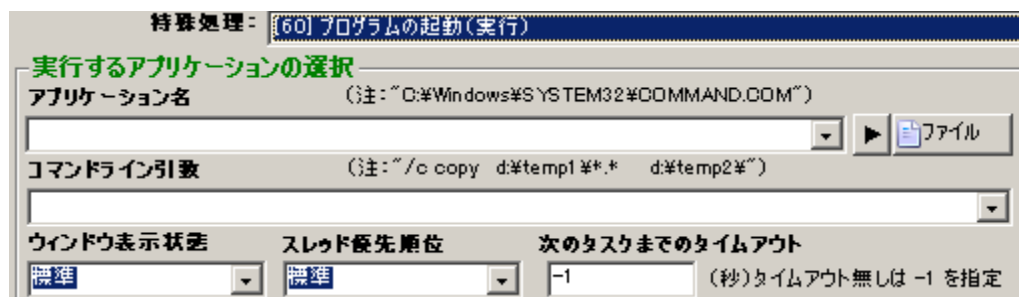
終了後レポートを作成

検索で合致したアイテムの概要が必要な場合、このオプションを有効にして、レポートファイルを指定します。

プログラムの起動、コピー、削除およびその他のファイル操作

ConvertDoc から、たとえば `command.com` のようなプログラムを選択し、起動することができます。これにより、コマンドライン引数の使用や、バッチファイルや MS Word、Excel などのアプリケーションの実行が可能になります。

[特殊処理: [60] プログラムの起動] を選択すると、次のような画面になります。



アプリケーション名: 実行するアプリケーションのパスと名前をタイプするか参照します。ここでは、コンピュータにインストールされているアプリケーションかコマンド・インタプリタを指定できます。起動ボタン (▶) [アプリケーション名] テキストボックスの右隣をクリックすると、タスクを実行せずアプリケーションが立ち上がり、新規のファイルが開きます。

コマンドインタプリタ (`command.com` や `cmd.exe`) を選択すると、コマンドライン引数 (DOS コマンド) を使用できます。環境変数の関係により、Windows NT システムの `command.com` と `cmd.exe` には相違があります。たとえば、`command.com` を使用すると、8.3 DOS 命名規則により制限が生じるのに対し、`cmd.exe` にこの制限はありません。したがって、「totalOf8.txt」とい

うファイル名は `command.com` でも `cmd.exe` でも使用できますが、「totalOfTen.txt」のような長い名前は `cmd.exe` でのみ使用できます。システムの設定により `command.com` でも使用できる場合もありますが、すべての状況で使用できるわけではありません。その場合、代わりに `cmd.exe` をアプリケーション名に指定し、同じコマンドライン引数を試みてください。

コマンドライン引数: ここでは、コピー、削除、ディレクトリの作成、バッチファイルの実行など、これまでの DOS コマンドが使用できます。文字列が続く場合、コマンドラインは「/c」からはじめます。注意: `command.com` インタープリタを使用する場合、通常の DOS 命名規則により、ファイル名には 8 文字+3 文字以内の拡張子（例: `eightchar.txt`）の名前をつける必要があります。ここに他の引数を付けずにファイル名とパスと指定した場合、アプリケーションが起動し、ファイルを開きます。

ウィンドウ表示状態: 隠す、標準、最大化または最小化から選択します。プログラムによってはこの項目が無効化され、そのプログラムが自動で選択した状態で開きます。

スレッドのプライオリティ: 待機、標準、最優先、リアルタイム優先順位から選択します。

待機	システムが待機状態のときにのみスレッドを実行するプロセスです。このプロセスのスレッドは、より優先度の高いプロセスのスレッドを優先します。
標準	特別なスケジュールの必要のないプロセスです。
最優先	直ちに実行する必要のあり、時間が重要視されるタスクを実行するプロセスです。このスレッドの処理は、標準または待機レベルの処理より優先されます。
リアルタイム優先順位	優先順位が一番高いプロセスです。このプロセスのスレッドは、重要なタスクを実行しているオペレーティングシステムのプロセスを含む他のすべてのプロセスよりも優先されます。

次のタスクまでのタイムアウト: 変換タスク一覧の次のタスクに移行する前にプロセスが実行する最大時間を秒単位で指定します。タイムアウトを必要としない場合は、-1 を使用します。

プログラムの起動: `cmd.exe` の例

コマンドラインは個別に実行することも、グループとして実行するように変換タスク一覧に作成することも、追加することもできます。プログラムを起動してタスクを完了するには、次の手順を行います。

- 1) [アプリケーション名] テキストボックスにアプリケーション名を入力します。
- 2) [コマンドライン引数] テキストボックスに実行するタスクのコマンドライン引数を入力します。

- 3) 必要に応じて [ウィンドウ表示状態]、[スレッド優先順位] および [次のタスクまでのタイムアウト] を設定するか、デフォルトのままにします。
- 4) [追加] をクリックし、これを変換タスク一覧に追加します。

これで、[変換] ボタンをクリックし、入力した1つのタスクを実行できます。または、それぞれのタスクで1から4の手順を繰り返し、タスクを追加し、[変換] をクリックして実行することもできます。そのジョブを再度実行する場合は、メインメニューから [ファイル] > [変換ジョブの保存] をクリックして、*.SII として保存します。

たとえば、次の表にある5つのコマンドを1つのグループとして実行するには、それぞれのアプリケーション名/コマンドライン引数に対し1から4の手順を繰り返します。すべてのジョブは次に行われます。1)Cドライブに TestDir という名前のディレクトリを作成します。2)Sample1.TXT というファイルをそのフォルダにコピーし、Copy1.TXT という名前をつけます。3)???????CopyOfSample という名前に変更し、リッチテキストフォーマット (RTF) で保存します。4)Dドライブから Sample1.TXT を削除します。5)cmdline.BAT という名前のバッチファイルを実行します。

アプリケーション名	コマンドライン引数
c:\windows\system32\cmd.exe	/c mkdir C:\TestDir
c:\windows\system32\cmd.exe	/c copy D:\Suzanne\Sample1.TXT C:\TestDir\Copy1.TXT
c:\windows\system32\cmd.exe	/c rename C:\TestDir\Copy1.TXT CopyOfSample.RTF
c:\windows\system32\cmd.exe	/c del D:\Suzanne\Sample1.TXT (注意: 最終引数として/Pを含めることも できます。その場合、削除の確認がプロンプ トされます)
c:\windows\system32\cmd.exe	/c D:\Suzanne\cmdline.BAT

注意: CMD.EXE は COMMAND.EXE とも呼ばれることがあり、両方ともオペレーティングシステムの System32 フォルダにあります。

変換ジョブのスケジュール

CD にはタイマーが組み込まれているので、秒単位から月単位まで指定した間隔で保存した変換ジョブを実行できます。日時指定した時間 (カレンダーベース) にジョブを実行することも、指定した間隔 (時間ベース) で定期的ジョブを実行することもできます。

ジョブのスケジューリング

定期的に行う【変換ジョブ】のスケジューリングを設定することができます。最初に、すでに保存しているジョブファイル (*.SII) を指定し、次に期間を指定します。【開始】をクリックすると、ジョブは設定した間隔で連続して実行されます。

実行させたいジョブファイル (*.SII) を選択してください

_____ [ファイル..]

セットアップ | オプション

時間で指定 カレンダーで指定

日単位 週単位 月単位

開始時間

12 [▼] 00 [▼] AM [▼]

すべて 1 日

平日すべて

開始(B) 終了(E) OK(O)

スケジューラを有効にする前に、**変換ジョブ (*.SII)** をファイルに保存する必要があります。変換ジョブファイルを作成する方法は、「**変換ジョブの保存と復元**」の項を参照してください。

重要!!! 次回、ファイルを読み込んだり、スケジュールするときにははじめから開始したい場合、変換ジョブファイルを保存する前に必ず**[巻き戻し]**してください。

[**変換**] から [**ジョブのスケジューリング**] を選択 (または **F8** 押下) し、ジョブのスケジューリングフォームを表示します。ファイルのパスと名前をタイプするか [**ファイル**] ボタンで参照し、既存の*.SII ジョブファイルを選択します。次に、2つのスケジューリング方法から1つを選択します。

時間で指定: 指定した間隔で連続的に実行するジョブに使用します (例: 35分ごと)。

カレンダーで指定: ジョブを実行する日時を指定する場合に使用します (例: 毎月3日午後10時30分)。

CDアプリケーションのタイトルバーには、次のジョブ実行までの残り時間がカウントダウン表示されます。

時間で指定

ジョブを実行する間隔を入力します。時、分、秒を組み合わせで指定することも、それぞれ1つだけを指定することもできます。たとえば、1時間30分は90分とすることもできます。

変換ジョブを毎時間実行する場合、繰り返されるジョブは、最初のジョブが開始した時間のちょうど1時間後に実行されます。たとえば、1時間ごとにジョブを実行するように設定し、最初のジョブが午後12時15分に実行された場合、ジョブの実行に15分かかったとしても、次のジョブは午後1時15分に始まり、その次のジョブは午後2時15分に始まります。次の表1をご覧ください。

ジョブ開始	ジョブ終了	次のジョブ開始時間
12:15 PM	12:30 PM	1:15 PM
1:15 PM	1:30PM	2:15PM
2:15PM	2:30PM	3:15PM
3:15PM	3:30PM	4:15PM

表1. 実行に15分かかり、1時間ごとに実行するようスケジュールされたジョブのタイムテーブル

ジョブの実行に1時間以上かかった場合、次のジョブは、そのジョブが終了するとすぐに実行されるか、その次のスケジュールで実行されます（詳細は、オプションの項を参照）。

カレンダーで指定

[カレンダーで指定] スケジューラにはいくつかのオプションがありますが、どれを選んでも、ジョブを実行する日時（[開始時間]）を入力する必要があります。



日単位

[日単位] を選択すると、ジョブは毎日1日1回（月曜日から金曜日）実行されるか、指定した日数間隔で1日1回実行されます。たとえば、[3日ごとに実行]を選択すると、ジョブは3日ごとに1日1回実行されます。このオプションを選択すると、1日から99日までの間隔でジョブを実行できます。

週単位

[週単位] を選択すると、99週までの間隔で、週に1回ジョブを実行できます。ジョブを実行する曜日は、1日から7日分まで選択できます。日曜日の深夜が週の最後となり、月曜日から次の週がはじまるので、スケジュールする際は気をつけてください。これは、たとえば、隔週の火曜日と金曜日にジョブを実行するスケジュールを設定する場合重要です。スケジューラを水曜日に設定すると、ジョブは金曜日に実行されます（第1週）。第2週は予定

通りスキップされ、次のジョブは第 3 週目の火曜日と金曜日に実行されます。これ以降、ジョブはこの間隔で実行されます。これを次の表で説明します。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
第 1 週			タイマー設定		ジョブ実行		
第 2 週	この週にジョブの実行はなし						
第 3 週		ジョブ実行			ジョブ実行		
第 4 週	この週にジョブの実行はなし						
第 5 週		ジョブ実行			ジョブ実行		

表 2 隔週の火曜日と金曜日にジョブを実行するスケジュールを水曜日にを設定

月単位

月に 1 回、指定した日にジョブを実行するには、[月単位] を選択します。ジョブを実行する間隔は 12 ヶ月まで指定できます。たとえば、3 ヶ月ごと、半年ごと、1 年ごとにジョブを実行するようスケジュールできます。月の最終日にジョブを実行する場合、日には 31 を指定してください。スケジュールは月の長さが異なる場合にも対応しており、月の最終日が 28 日、29 日、30 日、31 日でも、最終日を選択するようになっています。

スケジュールの実行

[時間で指定] または [カレンダーで指定] に必要な情報を入力したら、[開始] ボタンをクリックしてタイマーを始動します。

スケジュールされたジョブを終了させるには、スケジュールフォームを表示させ (F8) 、[終了] ボタンをクリックします。

[開始] をクリックしてタイマーを始動させると、Convert Doc ツールバーのボタンは使用できなくなります。タイマーが稼働している間は、スケジュールされたタスク以外のタスクにこの CD を使用しないようにします。スケジュールされていない他のタスクで CD を使用する場合は、CD をもう 1 つ立ち上げて使用します。タイマーを実行している間は、コンピュータと CD を稼働させ続けます。稼働中の Convert Doc をタスクバーのボタンに最小化することもできます。

オプション

開始時に実行

[オプション] タブでは、次回 CD を稼働させると、自動的に CD タイマーが開始するよう設定できます。つまり、スケジュールされたジョブを実行し、そのジョブが終了して CD を閉じると、次に CD を開いたとき、そのジョブが自動的に応答し、開始されます。データを入力し、[開始] ボタンをクリ

ックする必要はありません。たとえば、隔週でジョブを実行するようスケジュールした場合、タイマーが CD を自動的に再起動すると、最後に CD を閉じてから次の実行までの間隔がどのくらい開いていても、スケジューラはその日の日付に基づき次の実行までの時間を再計算します。[プログラムのロード時にタイマーを自動的に再起動] チェックボックスからチェックをはずすと、このオプションを解除できます。

プログラムのロード時にタイマーを自動的に再起動

指定時間を過ぎた場合の対応

指定した間隔以上に [時間で指定] したジョブの実行に時間がかかった場合、この状況に対応するため、CD では2つのオプションが選べます。

- 現在のジョブが終了した直後 (継続)
- この実行をスキップして、次の実行のためにタイマーをセット

[現在のジョブが終了した直後] を選択した場合、次のジョブは現在のジョブが終了した直後に始まります。つまり、この場合、ジョブは指定した時間の間隔に関係なく、連続して実行されます。[この実行をスキップして、次の実行のためにタイマーをセット] を選ぶと、実行が1つスキップされますが、次のスケジュールで実行されます。表3では、15分ごとに間隔が設定されているジョブの実行に20分かかった例を示しています。この場合、ジョブは1回おきに実行されています。

開始時間	開始時間を 基に計算され た次の対象時間		ジョブが 実際に終了した時間	新しい対象時間
1:00 PM	1:15 PM		1:20 PM	1:30 PM
1:30 PM	1:45 PM		1:50 PM	2:00 PM
2:00 PM	2:15 PM		2:20 PM	2:30 PM
2:30 PM	2:45 PM		2:50 PM	3:00 PM

表1. 次の対象時間は、15分間隔の設定に基づき計算されています。この例では、ジョブの実行に20分かかっているため、次の対象時間を過ぎてしまいます。CDでは、[スキップ] オプションで次の対象時間が過ぎてしまったことを認識し、指定した間隔に基づいて新しい対象時間を再計算します。ジョブは予定した頻度の半分の1:00、1:30、2:00に実行されます。

Convert Doc スケジューラの追記事項

スケジューラは使用しているコンピュータの時間に基づいているので、スケジューラの設定後にコンピュータの時間を変更した場合、引き続きスケジューラが正しく稼働していることを確認する必要があります。コンピュータの新しい日時に合わせて、スケジューラを再設定する必要がある場合があります。

'Convert Doc'の使用に必要なもの

このソフトウェアに必要な最小限のハードウェアおよびソフトウェア要件は次のとおりです。

- 16MBのメモリを搭載し、3MBのハードディスクドライブの空き容量があるIBMまたは互換性のあるPC/AT（Pentiumまたはそれ以上のCPU）
- VGAまたはSVGAディスプレイアダプタ
- Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows 2000、またはWindows XP

インストールとアンインストール

インストール

ConvertDocをコンピュータにインストールするためにセットアッププログラムを実行すると、インストールするハードドライブの場所を指定できます。整合性を保つため、推奨されるディレクトリにインストールすることをお勧めします（必須ではありません）。

CDにあるSetup.EXEを実行します。タスクバーの[スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行 (R)]メニューオプションを選択して、Setup.EXEを実行することもできます。その場合、Setup.EXEプログラムのパスと場所をタイプします。次に例を示します。

A:setup

[Enter]を押します。画面のインストールの指示に従います。

アンインストール

新しいバージョンの製品をインストールする前に、CDをアンインストールすることをお勧めします。

CDをアンインストールするには、タスクバーの[スタート]ボタンを押して、[設定(S)]>[コントロールパネル (C)]を選択します。

コントロールパネルの中から[プログラムの追加/削除]アイコンを選択します。一覧にあるCDをダブルクリックするか、[追加/削除]ボタンでアンインストールします。

他のプログラムで使用されていない限り、インストールでコピーされたすべてのファイルが削除されます。さらに、インストール先のディレクトリにファイル（例: 作成したプログラムファイル）が追加されている場合、すべて

のディレクトリが削除されなかったというレポートがアンインストールウィザードに表示されます。それらのファイルは手動で削除する必要があります。

トラブルシューティング

問題が発生したら、まず、次の手順でトラブルを解消してください。

- このマニュアルを参照
- よくある質問
<http://www.softinterface.com/Convert-Doc/Foreign/Japanese/Convert-Doc-FAQ-Japanese.HTM>
- バグ一覧
<http://www.softinterface.com/Convert-Doc/Foreign/Japanese/Convert-Doc-FAQ-Japanese.HTM>
- 最新パッチ/ダウンロード
<http://www.marroncraft.com/convertdoc/revhis.htm>
- Support@SoftInterface.COMへ質問を電子メールで送信（英語）
- ConvertDoc@MarronCraft.COMへ質問を電子メールで送信（日本語）

CDの使いやすさとこのマニュアルが、必要なサポートの入手にお役に立つことを願います。

コマンドラインからの'Convert Doc'の使用

コマンドラインの使用

ユーザーインタフェースを使用せず、昔の DOS のように、コマンドライン引数を使用して CD を実行できます。また、オペレーティングシステムのコマンドプロンプトや、Windows の [スタート] > [ファイル名を指定して実行] メニューにコマンドプロンプトをタイプしてコマンドラインを実行することもできます。最近では、バッチファイル (*.BAT 拡張子のあるファイル) からコマンドラインインタフェースを使用できます。

コマンドラインからは次の 2 つを実行できます。

- A) グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) で作成された変換ジョブを指定する。
- B) 変換ジョブの詳細を指定する。

変換ジョブの指定は、指定する *.SII 変換ジョブファイルの場所を 'Convert Doc' に指定するだけなので、とても簡単です。このタスクに関係するすべての詳細が一斉に実行されます。

変換タスクの指定は、それよりは手間がかかりますが、変換ジョブを事前に作成する必要がありません。

次にそれぞれの方法を詳しく説明します。

重要: コマンドラインを正しく使用するには、次のうちの 1 つを行う必要があります。

- A) 環境変数に ConvertDoc.EXE のパスを設定する。
- B) バッチファイルと同じフォルダに ConvertDoc.EXE をコピーする。

そうしないと、次のエラーが発生します。

'''ConvertDoc' is not recognized as an internal or external command, operable program or batch file.'''

また、ファイルを指定するには、完全修飾パスを使用することをお勧めします。しかし、".\"構文を使用して、現在のフォルダを指定することもできます。

次も参照してください。

例: PDF からテキスト/HTML への変換

例: WordPerfect から MS Word への変換

例: テキストから PDF への変換

例: MS Word から PDF への変換

例: MS Word からテキストファイルへの変換

変換ジョブの指定

はじめに、変換ジョブファイルを作成します。基本的に、それぞれの変換タスクの詳細を設定し、[追加]ボタンを押して実行するタスクに追加します。タスク一覧が完成したら、[ファイル]メニューで変換ジョブファイルを保存します。保存する前に、[巻き戻し]ボタンを押し、すべてのタスク一覧がコマンドラインから実行されることを確認してください。

変換ジョブを指定する構文は次のようになります。

ConvertDoc /J{ConversionJobFile} [/V] [/L{LogFile}] [/B{LogToJobFile}]

角括弧 ([]) で囲まれている上記のアイテムはオプションで、その他のスイッチは必須です。したがって、常に **J** をコマンドラインに指定する必要があります。

例:

「C:\MyJobs\ApplesOranges.SII」に指定された変換ジョブを実行するには、コマンドプロンプトで次のようにタイプします。

```
ConvertDoc /J"C:\MyJobs\ApplesOranges.SII"
```

スイッチとパラメータの間にはスペースを含めても含めなくてもかまいません。たとえば、「/C6」は「/C 6」と同じです。長いファイル名の場合、二重引用符が必要な場合があります。たとえば、/S"C:\Program Files\MyApp\MyDoc.DOC"となります。

「コマンドラインスイッチの仕様」を参照してください。

「ファイルタイプ定数の仕様」を参照してください。

例: PDF からテキスト/HTML への変換

例: WordPerfect から MS Word への変換

例: テキストから PDF への変換

例: MS Word から PDF への変換

例: MS Word からテキストファイルへの変換

変換タスクの指定

コマンドラインの構文は次のようになります。

ConvertDoc /S{Original File (s)} **/F#** **/T**{Target File (s)} **/C#** **[/M#]** **[/G]** **[/V]** **[/R]**
[/L{LogFile}] **[/B**{LogToJobFile}] **[/E]** **[/A#]**

角括弧 ([]) で囲まれている上記のアイテムはオプションで、その他のスイッチは必須です。したがって、常に **/S**、**/T**、**/C#** をコマンドラインに指定する必要があります。しかし、例外として、**/G** を指定すると、**/T** スwitchは必要ありません。

スイッチとパラメータの間にはスペースを含めても含めなくてもかまいません。たとえば、「**/C6**」は「**/C 6**」と同じです。長いファイル名の場合、二重引用符が必要な場合があります。たとえば、**/S" C:\Program Files\MyApp\MyDoc.DOC"** となります。

「コマンドラインスイッチの仕様」を参照してください。

「ファイルタイプ定数の仕様」を参照してください。

「'Convert Doc'の使用 - コマンドライン」を参照してください。

例: PDF からテキスト/HTML への変換

例: WordPerfect から MS Word への変換

例: テキストから PDF への変換

例: MS Word から PDF への変換

例: MS Word からテキストファイルへの変換

コマンドラインスイッチの仕様

それぞれのスイッチの説明は次のようになります。

スイッチ	意味
/J {ファイル}	実行する変換ジョブファイル (*.SII) を指定します。このスイッチを使用する場合、事前に変換ジョブファイルを作成する必要があります。
/S {ファイル}	変換するオリジナルファイルです。 単一ファイルの変換には、完全パスを含む単一ファイルの指定が可能です (例: "D:\MyExcelFiles\MyWordFile.DOC")。 単一ファイルを指定した場合、 /T スwitchが単一の出力ファイルを指定していることを確認します (例: "D:\MyExcelFiles\TargetOutput.PDF")。 また、ワイルドカード構文を使用して、ディレクトリ全体を指定することもできます (例: "D:\MyWordFiles*.DOC")。ディレクトリ全体を指定する場合、 /T がディレクトリ全体と対象ファイルの新しい拡張子を指定していることを確認します (例:

	<p>“D:\MyExcelFiles*.PDF”)。</p> <p>サブフォルダについては、/R を参照してください。</p>
/F #	<p>オリジナルファイルのファイルタイプです。オリジナルファイルのパスは、/S スイッチで指定されます。このスイッチは、これらのファイルのファイルタイプを指定します。</p> <p>このスイッチは、'Convert Doc' (M2) 変換方式を使用する場合にのみ必要です。それ以外は無視されます。MS Word (M1) を使用する場合、MS Word で認識できるすべてのファイルタイプを使用できます。PDF 変換[M3] を使用する場合、オリジナルファイルタイプには、必ずPDF ファイルを使用します。</p> <p>有効な値については、ファイルタイプ定数の表を参照してください。</p>
/T[ファイル]	<p>変換後に作成される対象ファイルです。これらのファイルは、オリジナルファイルと選択した変換方式から作成されます。</p> <p>単一ファイルを指定した場合、/S スイッチが単一の入力ファイルを指定していることを確認します (例： “D:\MyExcelFiles\TargetOutput.DOC”)。</p> <p>また、ワイルドカード構文を使用してディレクトリ全体を指定することもできます (例：“D:\MyWordFiles*.PDF”)。ディレクトリ全体を指定する場合、/S がディレクトリ全体とオリジナルファイルの拡張子を指定していることを確認します (例：“D:\MyExcelFiles*.DOC”)。</p> <p>このスイッチは、/G スイッチが使用されている場合無視されます。</p>
/C #	<p>対象ファイルのファイルタイプです。対象ファイルのパスは、/T または /G スイッチで指定されます。このスイッチは、これらのファイルのファイルタイプを指定します。</p> <p>有効な値については、フィルタイプ定数の表を参照してください。</p>
/G	<p>オリジナルのフォルダにファイルを保存します。オリジナルファイルと同じフォルダに変換したファイルを置くには、/T の代わりにこのスイッチを使用します。同じフォルダ内で単一ファイルの変換を指定した場合は使用できません。代わりに/T スイッチを使用します。</p>
/V	<p>詳細モードです。変換の進行状況を表すメッセージボックスを表示するには、このスイッチを指定します。/L も参照してください。</p>
/R	<p>/S スイッチで指定されたサブフォルダのすべてのファイルを探し出し、処理します。再帰的サブディレクトリです。ディレクトリのファイル全体を処理する場合、このスイッチを追加できます。ディレクトリ全体の変換の選択については、/S、/T およ</p>

	び/Gを参照してください。
/M#	<p>使用する変換方式を指定します。次の値が有効です。</p> <p>1 = MS Word 2 = 'Convert Doc' (デフォルト値) 3 = PDF ファイル変換</p> <p>このスイッチは、'Convert Doc'方式を使用する場合には不要です。</p> <p>値の選択に関する詳細は、「変換方式」を参照してください。</p>
/L{ファイル}	<p>ログファイルのパスおよび名前です (例: d:\mylogs\WCE.LOG)。このスイッチを指定すると、指定したパスと名前のログファイルが作成され、変換結果が記録されます。/Vも参照してください。</p>
/B{ファイル}	<p>エラーが発生した場合にのみ、ログファイルを変換ジョブとして保存してください。これは、問題のあるファイルを後から処理する場合や、他の方法で処理する場合に有効です。/Bは/Lとは異なります。/Bで作成されるファイルには、変換ジョブファイルでは認識できない不要なコメントは含まれないためです。ジョブとして読み込めるように、.SIIファイルタイプで保存します。</p>
/E	<p>PDFからテキスト、またはPDFからHTMへの変換を高速で処理します。このスイッチは超高速の変換に使用します。ほとんどのPDFで使用できますが、マイナーなPDFエディタで作成されたPDFでは問題が生じる場合があります。</p>
/A#	<p>PDFからRTFへの変換の詳細オプションです (一般セクション)。このパラメータで使用される番号を使用し、いくつかのことを指定します。このスイッチは何度でも使用できます。特にオプションを指定しないと、前回のアプリケーション設定がデフォルトになります (例: コマンドラインで実行していないとき)。</p> <p>ドキュメントのレイアウト</p> <p>1 = シングルカラムレイアウト 2 = マルチカラムレイアウト 3 = 法的文書</p> <p>変換方式</p> <p>5 = スペースとタブでレイアウトを維持 6 = ヘッダの検出 TRUE 7 = ヘッダの検出 FALSE 8 = テキストフロー 9 = テキストボックスを使って正確に配置 10 = テキストの結合 TRUE 11 = テキストの結合 FALSE 12 = スペースの調整 TRUE 13 = スペースの調整 FALSE</p> <p>テキストオプション</p>

<p>20 = テキストを含める TRUE 21 = テキストを含める FALSE 22 = 段落の結合 TRUE 23 = 段落の結合 FALSE 24 = フォントの縮小 TRUE 25 = フォントの縮小 FALSE 26 = フォント名の調整 TRUE 27 = フォント名の調整 FALSE 28 = ハイパーリンクの抽出 TRUE 29 = ハイパーリンクの抽出 FALSE</p> <p>たとえば、次の行は、[シングルカラム]レイアウトと[テキストボックスを使って正確に配置]と[テキストの結合]を使用して PDF ファイルを RTF に変換します。</p> <p>'/SE:\Delme\simple.pdf /Te:\delme\Tryme.RTF /M3 /C3 /A1 /A9 /A10</p>

すべてのコマンドラインスイッチ

「コマンドラインスイッチの仕様」を参照してください。
「ファイルタイプ定数の仕様」を参照してください。
「'Convert Doc'の使用 - コマンドライン」を参照してください。

- 例: PDF からテキスト/HTML への変換
- 例: WordPerfect から MS Word への変換
- 例: テキストから PDF への変換
- 例: MS Word から PDF への変換
- 例: MS Word からテキストファイルへの変換

ファイルタイプ定数の仕様

この項では、コマンドラインからの/F#と/C#のオリジナルおよび対象ファイルタイプの指定について説明します。使用されるファイルタイプ定数は、使用する変換方式に依存します（詳細は、変換方式の項を参照してください）。

MS Word 変換方式 (/M1)

次の表は、MS Word 変換方式を使用する場合、対象ファイルタイプ定数 (/C#スイッチ) に有効です。対象ファイルタイプ選択の GUI から[その他のフォーマット]を選択すると、他のファイルタイプ定数が表示される場合があります。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
0	Word Doc (*.DOC) として
4	DOS テキスト (*.TXT)
5	DOS テキスト - 改行 (*.TXT)
7	エンコードテキスト (*.TXT)
8	HTML (*.HTM、*.HTML)
6	リッチテキストフォーマット (RTF)
2	テキスト

3	テキスト改行
7	UNICODE テキスト

/M1 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数

'Convert Doc' 変換方式 (/M2)

次の表は、Convert Doc 変換方式を使用する場合、/C# および/F#コマンドライン引数を指定するのに有効です。これはデフォルトの変換方式です。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
1	テキスト
4	HTML
5	リッチテキストフォーマット (RTF)
6	UNICODE テキスト
9	DOC、MS Word Doc
*12	PDF フォーマット

/M2 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数

* = PDF はオリジナルファイルタイプとしては使用できません。

PDF ファイル変換方式 (/M3)

次の表は、PDF ファイル変換方式を使用する場合、/C# および/F#コマンドライン引数を指定するのに有効です。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
1	テキスト
2	HTML
3	RTF/DOC (リッチテキストファイル/MS Word ファイル)

/M3 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数

		対象フォーマット ²				
		Word Doc (*DOC) として	HTML (*HTM、 *.HTML)	リッチテキ ストフォー マット (*RTF)	テキ スト	PDF
オリジナル フォーマッ ト ²	Word Doc (*DOC) として		/M1、/M2	/M1、/M2	/M1 、 /M2	/M2
	HTML (*HTM、 *.HTML)	/M1、/M2		/M1、/M2	/M1 、 /M2	/M2

注意: /M2
は/M1 より
高速です。

リッチテキストフォーマット (*.RTF)	/M1、/M2	/M1、/M2		/M1、/M2	/M2
テキスト	/M1、/M2	/M1、/M2	/M1、/M2		/M2
PDF	/M3 ¹	/M3	/M3	/M3	

¹PDFからRTFへの変換には/M3を選択します。そうすると、*.DOCなど、MS Wordで保存できるあらゆるフォーマットで、RTFドキュメントを開いたり保存したりできるようになります。バッチモードでは、/M3を使用してPDFからRTFに変換し、/M1または/M2でRTFからDOCに変換します。

²ここに提示されていないフォーマットもあります。MS Wordでサポートされているさまざまなフォーマットです。それらのタイプはすべてオリジナルまたは対象フォーマットとして使用でき、変換方式は/M2を使用する必要があります。

「コマンドラインスイッチの仕様」を参照してください。
「'Convert Doc'の使用 – コマンドライン」を参照してください。

- 例: PDF からテキスト/HTML への変換
- 例: WordPerfect から MS Word への変換
- 例: テキストから PDF への変換
- 例: MS Word から PDF への変換

例: MS Word からテキストファイルへの変換 PDF からテキスト/HTML への変換

D:\A フォルダにあるすべての PDF ファイルをテキストファイルに変換し、同じディレクトリ保存するには、次の構文を使用します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.PDF /T D:\A\*.TXT /C1 /M3
```

/S と /T スイッチは、それぞれオリジナルと対象のパスを指定します。/M3 と /C1 は、Convert Doc に PDF 変換方式を使用してテキストファイルを作成するよう指示します。同じフォルダにある 1 つのファイルを変換するには、/T スイッチを使用する必要があります。同じフォルダにある、あるタイプのドキュメントをすべて変換する場合、/T スイッチの代わりに /G スイッチを使用することもできます。この方法のほうがより簡潔です。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.PDF /G /C1 /M3
```

この例を D:\A のすべてのサブフォルダの変換に適用する場合、/R スイッチを追加します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.PDF /G /C1 /M3 /R
```

1 つのファイルを同じフォルダ内で変換するには、/T スイッチを使用します。また、この例では、変換したドキュメントを別のドライブに保存します。

```
ConvertDoc /S D:\MyFolder\Doc1.PDF /T C:\ResultsFolder\Doc1.TXT /C1 /M3
```

PDF から TXT ファイルに変換し、詳細モード (/V) を使用してログファイルを作成し、確認画面を表示させます。次回の実行のログは同じファイルに記されます。前回の実行のログは変更されず、新しい情報が追加されます。

```
ConvertDoc /S D:\MyFolder\Doc1.PDF /T C:\ResultsFolder\Doc1.TXT /C1 /M3 /L C:\ResultsFolder\Logs\PDFLog.LOG /V
```

PDF から HTML に変換するには、上の例で/C1 を/C2 に変え、対象フォルダのタイプを.HTM に変更します。

最初に詳細 (/V) スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

例: WordPerfect から MS Word への変換

これらの例では、デフォルトの変換方式 ('Convert Doc') が使用されているので、/M#スイッチは不要です。

1つのテキストファイル D:\MyTextFiles\Rand.WPD を MS Word ファイル D:\MyDocFiles\Rand.DOC に変換するには、次の構文を使用します

```
ConvertDoc /SD:\MyWPDFiles\Rand.WPD /F24 /T D:\MyDOCFiles\Rand.DOC /C0
```

/F24 スイッチの 24 の箇所を確認するには、Wordperfect ファイルタイプ定数を確認します。次のように行います。

1. 'Convert Doc' ユーザーインターフェースを実行します。
2. [ファイルの変換] オプションを選択します。
3. GUI の対象ファイルタイプ選択から [[?] その他のフォーマット] を選択します。
4. [対象フォーマット] ドロップダウンリストボックスから、変換定数を確認します。

最初に詳細 (/V) スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

例: テキストから PDF への変換

これらの例では、デフォルトの変換方式 (Convert Doc) が使用されているので、/M#スイッチは不要です。

1つのテキストファイル D:\MyTextFiles\Aristotle.TXT を PDF ファイル D:\MyPDFFiles\Aristotle.PDF に変換するには、次の構文を使用します

```
ConvertDoc /SD:\MyTextFiles\Aristotle.TXT /F1 /T D:\MyPDFFiles\Aristotle.PDF /C12
```

D:\MyTextFiles\Aristotle フォルダのすべてのテキストファイルを .PDF フォーマットに変換するには、次を使用します。

```
ConvertDoc /SD:\MyTextFiles\*.TXT /F1 /T D:\MyPDFFiles\*.PDF /C12
```

.TXT から .PDF に変換し、ログファイルを作成するには、同時に詳細モード (/V) を選択します。

```
ConvertDoc /SD:\MyTextFiles\*.TXT /F1 /T D:\MyPDFFiles\*.PDF /C12 /L  
D:\MyPDFFiles\PDFLog.LOG /V
```

最初に詳細 (/V) スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

例: MS Word から PDF への変換

これらの例では、デフォルトの変換方式 (Convert Doc) が使用されているので、/M#スイッチは不要です。

D:\A フォルダにあるすべての MS Word ファイルを、同じディレクトリ内で PDF ファイルに変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /T D:\A\*.PDF /C12
```

/T スイッチの代わりに /G スイッチを使用しても同じ結果が得られます。この方法のほうがより簡潔です。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /G /C12
```

この例を D:\A のすべてのサブフォルダの変換に適用する場合、/R スイッチを追加します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /G /C12 /R
```

1つのファイルを、同じフォルダ内で .DOC から .PDF フォーマットに変換する場合、/V スイッチを使用してログファイルを作成し、確認画面を表示させます。次回の実行のログは同じファイルに記されます。前回の実行のログは変更されず、新しい情報が追加されます。

```
ConvertDoc /S D:\MyFolder\WordFile.DOC /F9 /T  
C:\ResultsFolder\WordFile.PDF /C12 /L C:\ResultsFolder\WordLog.LOG /V
```

最初に詳細 (/V) スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

例: MS Word からテキストファイルへの変換

次の例では、デフォルトの変換方式 (Convert Doc) が使用されているので、/M#スイッチは指定しません。MS Word 変換方式の使用を指定するには、/M1 スイッチを追加します。

D:\A フォルダにあるすべての MS Word ファイルを、同じフォルダ内でテキストファイルに変換するには、次の構文を使用します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /T D:\A\*.TXT /C1
```

/Tスイッチの代わりに/Gスイッチを使用しても同じ結果が得られます。この方法のほうがより簡潔です。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /G /C1
```

この例を D:\A のすべてのサブフォルダの変換に適用する場合、/R スイッチを追加します。

```
ConvertDoc /SD:\A\*.DOC /F9 /G /C1 /R
```

MS Word 変換 (/M1 スイッチ) を使用して 1 つのファイルを変換する場合の例です。.DOC フォーマットから DOS テキスト (.TXT) に変換し、/V スイッチを使用してログファイルを作成し、確認画面を表示させます。次回の実行のログは同じファイルに記されます。前回の実行のログは変更されず、新しい情報が追加されます。

```
ConvertDoc /S D:\MyFolder\WordFile.DOC /F9 /T  
C:\ResultsFolder\NewFile.TXT /C4 /M1 /L C:\ResultsFolder\WordLog.LOG /V
```

最初に詳細 (/V) スイッチを使用し、変換の状態を確認することをお勧めします。

変換定数

ファイル変換フォーマット

この項では、コマンドラインからの/F#と/C#のオリジナルおよび対象ファイルタイプの指定について説明します。使用されるファイルタイプ定数は、使用する変換方式に依存します（詳細は、変換方式の項を参照してください）。

MS Word 変換方式 (/M1)

次の表は、MS Word 変換方式を使用する場合、対象ファイルタイプ定数 (/C# switch) に有効です。対象ファイルタイプ選択の GUI から[その他のフォーマット]を選択すると、他のファイルタイプ定数が表示される場合があります。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
0	Word Doc (*.DOC) として
4	DOS テキスト (*.TXT)
5	DOS テキスト - 改行 (*.TXT)
7	エンコードテキスト (*.TXT)
8	HTML (*.HTM、*.HTML)
6	リッチテキストフォーマット (RTF)
2	テキスト
3	テキスト改行
7	UNICODE テキスト
11	XML (MS Word 2003 以降)

/M1 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数

Convert Doc 変換方式 (/M2)

次の表は、Convert Doc 変換方式を使用する場合、/C# および/F#コマンドライン引数を指定するのに有効です。これはデフォルトの変換方式です。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
1	テキスト
4	HTML
5	リッチテキストフォーマット (RTF)

6	UNICODE テキスト
9	DOC、MS Word Doc
*12	PDF フォーマット

/M2 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数
 *= PDF はオリジナルファイルタイプとしては使用できません。

PDF ファイル変換方式 (/M3)

次の表は、PDF ファイル変換方式を使用する場合、/C#コマンドライン引数を指定するのに有効です。/F# (オリジナルファイルタイプ) は必要ありません。PDF ファイルとして認識されます。

ファイルタイプ定数	ファイルタイプ
1	テキスト
2	HTML
3	RTF/DOC (リッチテキストファイル/MS Word ファイル)

/M3 および/C#コマンドラインスイッチと使用するファイルタイプ定数

		対象フォーマット ²				
		Word Doc (*.DOC) として	HTML (*.HTM、 *.HTML)	リッチテキ ストフォー マット (*.RTF)	テキ スト	PDF
オリジナル フォーマ ット ²	Word Doc (*.DOC) として		/M1、/M2	/M1、/M2	/M1 、 /M2	/M2
	HTML (*.HTM、 *.HTML)	/M1、/M2		/M1、/M2	/M1 、 /M2	/M2
	リッチテキ ストフォー マット (*.RTF)	/M1、/M2	/M1、/M2		/M1 、 /M2	/M2
	テキスト	/M1、/M2	/M1、/M2	/M1、/M2		/M2
	PDF	/M3 ¹	/M3	/M3	/M3	

注意: /M2 は /M1 より高速です。

¹ PDF から RTF への変換には /M3 を選択します。そうすると、*.DOC など、MS Word で保存できるあらゆるフォーマットで、RTF ドキュメントを開いたり保存したりできるようになります。バッチモードでは、/M3 を使用して PDF から RTF に変換し、/M1 または /M2 で RTF から DOC に変換します。

² ここに提示されていないフォーマットもあります。MS Word でサポートされているさまざまなフォーマットです。それらのタイプはすべてオリジナルまたは対象フォーマットとして使用でき、変換方式は /M2 を使用する必要があります。

「コマンドラインスイッチの仕様」を参照してください。
「'Convert Doc'の使用 - コマンドライン」を参照してください。

例: PDF からテキスト/HTML への変換

例: WordPerfect から MS Word への変換

例: テキストから PDF への変換

例: MS Word から PDF への変換

例: MS Word からテキストファイルへの変換

付録 A: 変換ジョブおよびログファイルの構造

変換ジョブファイルの読み込み、作成方法

変換ジョブファイルの作成または既存の変換ジョブの変更が必要になる場合があります。そのため、変換ジョブファイル（CJF）の構造についての詳細を説明します。

CJFはASCIIテキストファイルで、拡張子は*.SIIです。ファイルのそれぞれの行には、変換タスクが含まれています。この変換タスクは、9つのタブ区切りフィールドで指定されています。このファイルはNotepadで簡単に開けます。MS Excelでも開けます。MS Excelのほうが閲覧、編集が簡単です。必ずタブ区切りテキストファイルで保存してください。

繰り返しますが、この変換タスクは、次のように9つのタブ区切りフィールドで指定されています。

<フィールド 1> <TAB> <フィールド 2> <TAB><フィールド 8> <Tab> <フィールド 9>

フィールド	使用方法
1	<p>全般的な変換オプションです。この文字列のそれぞれの文字は、次のオプションを指定します。</p> <p>"M": 変換に、Convert Doc'に組み込まれた変換の代わりに、MS Wordを使用する。"M"を指定すると、MS Wordの使用を指定することになります。それ以外の場合は、Convert Doc'に組み込まれたフィルタが使用されます。/M1 コマンドラインスイッチと同じです。</p> <p>"P": PDFの変換方式を使用します。PDFから別のファイルタイプに変換する場合に使用します。/M3 コマンドラインスイッチと同じです。</p> <p>"R": フィールド1に"R"が含まれている場合、オリジナルのサブフォ</p>

	<p>ルダのファイルが変換対象ファイルとなります。<i>/R</i> コマンドラインスイッチと同じです。</p> <p>"G": フィールド 1 に"G"が含まれている場合、対象ファイルはオリジナルと同じフォルダに保存されます。<i>/G</i> スイッチと同じです。</p> <p>例 1: Convert Doc 変換方式を使用し、サブフォルダは含めず、オリジナルフォルダに保存しないよう指定する場合、""を使用します。これは正しい空の文字列です。</p> <p>例 2: MS Word 変換を使用し、オリジナルファイルのサブフォルダを変換し、オリジナルフォルダに保存しないよう指定する場合、"MR"を使用します。</p> <p>例 3: Convert Doc 変換フィルタを使用し、サブフォルダは含めず、オリジナルフォルダに保存するよう指定する場合、"G"を使用します。</p>
2	ジョブ番号です。変換ジョブファイルを読み込むと、Convert Doc は適当な番号を振り直します。
3	"C" は変換処理を表し、 "S#" は特殊処理を表します。
4	オリジナルファイルパスです (<i>/S</i> スイッチと同じ)。
5	オリジナルファイルタイプ定数です (<i>/F#</i> スイッチと同じ)。
6	オリジナルファイルタイプの拡張子です (MS Word なら*.DOC、テキストなら*.TXT を使用)。
7	対象ファイルパスです (<i>/T</i> スイッチと同じ)。
8	対象ファイルタイプ定数です (<i>/F#</i> スイッチと同じ)。
9	対象ファイルタイプの拡張子です (MS Word なら*.DOC、テキストなら*.TXT を使用)。

変換ジョブファイルフィールドの仕様

ログファイルには、次に示す 2 つのフィールドが追加されます。

フィールド	使用方法
10	ユーザは使用しません。このフィールドは無視します。
11	不具合の原因です。

ログファイルには、2 つのフィールドが追加されます。

付録 B: 言語の変更または追加

言語の変更または追加

Convert Doc では、[ファイル]>[言語]で言語を選択できます。使用できる言語はすべてここから選択できます。言語設定を有効にするには、プログラムを再起動します。

言語の追加や変更は、言語ファイルを編集し、言語フォルダに配置するだけです。言語フォルダはインストールフォルダに含まれ、通常は次の場所にあります。

C:\Program Files\Softinterface, Inc\ConvertDoc\Languages\

代表的な言語ファイル名は次のようになります。

Japanese-'Convert Doc'.txt

German-'Convert Doc'.txt

Convert Doc では、言語フォルダのすべてのファイル名を参照し、使用可能な言語ファイルの一覧を作成しているため、ファイル名は大変重要です。言語ファイル名は次の形式になっています。

Language-'Convert Doc'.txt

言語を追加する場合、既存の言語ファイルをコピーし、名前を変更して編集します。

言語ファイルは次の形式になっています。

"英語","訳語"

"Ok","はい"

"Without","なし"

英語と訳語の間にスペースはありません。次は不適当な使用例です。

"英語", "訳語"

"Ok", "はい"

"Without", "なし"

新しい言語ファイルの作成にご協力いただくと、無料でライセンスを贈呈する場合があります。次のサイトをご覧ください。

http://www.softinterface.com/MD/MD_Languages.htm

既存の言語ファイルへの修正もお待ちしております。

付録 C: WordPerfect とその他のファイルタイプの変換

WordPerfect とその他のファイルタイプの変換

たとえば、Wordperfect ファイルを変換するには、まず、MS Word 変換方式を選択します。次に、MS Word がインストールされていて、MS Word で変換するファイルタイプを開けることを確認します。

通常、WordPerfect は必要なファイルフィルタをインストールしないと、MS Word ではすぐに開けません。この問題は、問題のドキュメントタイプを Word で開けば解決できます。必要なモジュールをインストールするよう、Word でプロンプトが表示されます。また、MS Office のインストールを実行し、MS Word に必要なファイルフィルタを追加することもできます。インストール中、すべての必要なフィルタで[Converters and Filters]>[Text Converters]をチェックしてください。